

【情報理工学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

7～10月にかけてカリキュラムの見直しと改訂の議論を行い、これに伴うカリキュラムマップの見直しと一部改訂を実施した。

② シラバス

2025（令和7）年度からの新たな学年暦と授業の実施方法に合わせたシラバスの公開・運用を開始した。年度末に、科目レベルでのシラバス見直しと改訂を実施し、カリキュラム委員会でのシラバスチェックを行った。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

カリキュラムの見直しや新規開講科目の計画に合わせて、科目ナンバリングの見直しと一部改訂を実施した。

課題

新たな学年暦と授業実施方法のもとでの各科目レベルでの問題点や課題をまず把握することが必要である。コースごとのカリキュラムツリーの位置づけや表し方について、引き続き議論と検討が必要である。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学部FDワークショップにて、プログラミングや各種レポート作成、卒業論文作成、授業内課題等における生成AIの使い方の把握と、生成AI活用を前提とした学修成果・教育成果の評価方法についての議論を行った。

課題

高校教科「情報」の新課程施行に合わせたプログラミング教育、情報科学／情報工学教育の有り方について、引き続き入学生の動向を分析・把握しながら必要に応じて軌道修正を図ってゆく。そのための、学生の知識・技能・態度をよりよく把握・可視化する仕組みの開発が課題となる。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

カリキュラム改編を行ったプログラミング演習科目については、2年次の科目において授業出席率や単位

合格率が低下傾向にある。各種専門講義科目の合格率は平均的には前年度までと同様のレベルを維持している。8セメスター生の卒業時留年率は再び20%を下回る改善が見られた。学習成果実感調査では、授業の到達目標の達成度は「達成できた（80%以上）」「概ね達成できた（60～80%）」の回答が全科目を平均して90%を超えており、学部の教育目標は大多数の学生において概ね達成されていると言える。

課題

入学者数の増加に伴い、特に低年次における学生間の成績のばらつきや多様化が拡大傾向にある。3年次秋学期に特別研究履修のためのグレード条件を満たせない学生の層も減少しておらず、勉学習慣や大学での修学態度の停滞を早期からサポートする取り組みが引き続き必要である。学習成果実感調査など各種修学アンケートへの回答率向上のための取り組みも課題である。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

学年混成チームによる制作・研究の対外発表活動を促進する支援プログラムを継続し、学生の主体性やリーダーシップ・協働能力などの資質・能力向上や、大学院進学者の増加などへの寄与が見られた。

② 課題

就職の質の向上や大学院進学率の向上に向けた取り組みを引き続き検討する。入試において「情報」科目を受験して入学した学生の大学での成績動向や、高校までの修学内容の違いによる「情報」の知識・技能・態度の違いやばらつきの把握も引き続き試みる。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☒ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。

→②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

学部および研究科の3つのポリシーの改訂に合わせて、教員組織の編制方針の見直しと一部改訂を行った。

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへ掲載します。